

豚のふん配合、有機質肥料

JAぎふが商品化

JAぎふ(岐阜市司町)は、管内の畜産農家から出る豚のふんを3割配合した動植物由来の有機物のみを原料とする有機質ペレット肥料を商品化した。JAぎふでは消費者の声を反映する「地消地産」の一環で、有機農業の推進を掲げており、この肥料を活用して環境に配慮した農業の普及拡大を図る。

(佐名妙予)

畜産農家からの資源活用

JAぎふによると、畜産農家では毎日1頭当たり約2・1キロのふんが出ることから、大量の糞尿を有効活用するため、糞尿を利用した肥料の開発を探ってきた。今回、JA全農岐阜と肥料メーカーの片倉コープアグリ(東京都)によるOEM(相手先ブランドによる生産)で開発。試作を重ね、豚のふんを3割配合す

4日に同市石谷のJAぎふアグリパーク鈴ヶ坂で会見があり、JAぎふの渡邊智和常務理事は「環境に配慮した農業の拡大で農家の活躍できる地域づくりを進

めたい」と話した。JA全農岐阜の林政和副本部長は「肥料価格が高騰する中で、地域資源を活用した肥料ができたことで安定供給にもつながる」と語り、同社の湖城聡名古屋支店長は「全国の先進事例となれば」と期待した。

14日から管内の営農経済センターなどで1袋(15キロ)、2307円で販売するほか、インターネットでの注文も受け付ける。



豚のふんを3割配合し、動植物由来の有機物のみを使った有機質ペレット肥料をPRする(右から)林政和副本部長、渡邊智和常務理事、湖城聡名古屋支店長＝岐阜市石谷、JAぎふアグリパーク鈴ヶ坂